

【ふらの市民環境会議から新庁舎建築に関する要望書の提出について】

ふらの市民環境会議では臨時会を2回開催し7月1日に富良野市長に対し要望書を提出してきています。

はじめに

現在の庁舎は50年が経過しており、「老朽化」「部・課の分散化」に加え、近年多発する自然災害への対応が急務と考える。

新庁舎建築に当たっては、市民の関心も高く、基本計画を経た現段階において、概算事業費として58億円の事業費が見込まれているところであるが、将来負担へ配慮することが肝要である。

ふらの市民環境会議として、今後の富良野100年を考える時、自然環境の保全・自然エネルギーの活用が良い選択と考える。

道産材（富良野産）の木材・断熱材を利用した建築、将来を見据えた RDF ボイラー導入前のバイオマス木質ボイラーの導入、冬季災害時にも対応できるよう木質バイオマスストーブの煙突の確保。冬季積雪時にも対応できる壁面設置の太陽光パネルによるリチウムイオンバッテリーなどの高性能な蓄電システム等自然エネルギーを活用した庁舎になるよう、新庁舎建築に対し要望書を提出します。

- ・自然エネルギーの活用
- ・木質バイオマスボイラーの活用
- ・気候に合わせた建築
- ・電源のいない暖房システム

まとめ

話し合いにおいて、市民は災害時に機能を十分に発揮できる新市庁舎であって欲しいとの思いが強くあることを感じました。万が一被災してもこの市庁舎をだれもが利用しやすい状況を考えて設計して頂ければ幸いと思います。

最近の異常気象や地震は今までの尺度では測れない周期や規模で見舞われています。

旧態依然の対応では、難しい災害がこれから起こることも十分予想されます。その地域の技術やエネルギーを日ごろから利用することは災害対策の1つであると考え、これらの提案させていただきます。

